

# オーナーさんのための 看板の安全管理 ガイドブック



# 目次

## はじめに

1	看板の「安全」が支えるもの	02
2	さまざまな看板	03
3	看板の種類とチェックポイント	
3-1	袖看板(突出看板)	04
3-2	壁面看板	05
3-3	建植看板(ポール看板、自立看板、野立看板)	06
3-4	屋上看板	08
3-5	置看板(スタンド看板)	09
3-6	アーチ看板	10
4	守るべき看板のルール	11
5	看板の「安全」を脅かすもの	12
6	身近に迫る看板事故の危険	13
7	安全のための見える化、しくみ化	14
8	所有者の日常点検と初動処置	15
9	専門業者による定期安全点検	16
10	各地域の組合と連絡先	17

## はじめに

私たちの身近には、様々な屋外広告物（以下「看板」といいます。）が設置されています。それぞれの形態や取付方法、設置した時期等によって状況は異なりますが、雨や風、強い日差し等の厳しい自然環境により、知らず知らずのうちに、部材の腐食、ゆるみ、亀裂等が発生している場合があります。

これらをそのまま放置しておく、看板が「おちる」「たおれる」「とぶ」ような事故につながり、時には人身をも危険にさらし取り返しのつかない状況を招く恐れがあります。

もしも、皆さんが所有する看板が落下し第三者に被害を及ぼした場合、長年積み重ねてきた企業や店舗等の信頼を一瞬で失うことになりかねません。また、多額の賠償金や風評により、事業の継続が脅かされるような事態に陥る危険性もあります。

この冊子は、企業や店舗などの経営者が、看板にかかわるリスクやハザードから身を守り、安心して事業を展開できるようサポートするものです。

看板は皆さんの心構え一つで事業を発展させる素晴らしいものになります。

ぜひ、皆さんの看板も安全安心で、お客さんを呼び込むものにしていきましょう。

屋外広告物適正化推進委員会  
「看板の安全管理ガイドブック」編集委員会一同

屋外広告物適正化推進委員会とは、新しい時代の屋外広告物のあり方を考えることを目的に、全国の屋外広告物に携わる学識経験者、国土交通省・地方自治体の屋外広告行政担当者及び業界関係者で組織する産学官連携ネットワークです。

# 1

## 看板の「安全」が支えるもの

### (1) 「企業の顔」には、安全が重要

看板とは、企業や店舗等のシンボルであり、消費者に対してブランドや商品などのメッセージを伝えるコミュニケーションの道具です。

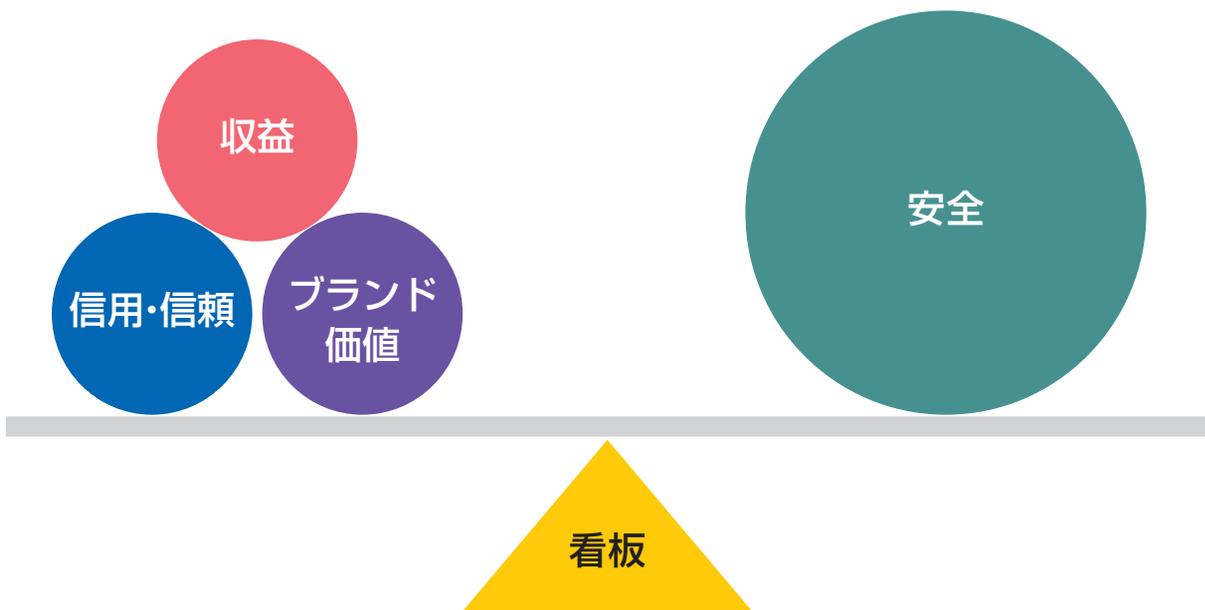
ブランドとは、自社と競合相手との製品やサービスの違いを明確にするためのシンボルマークやロゴを指すほか、企業の経営理念やマーケティング戦略に基づく企業活動全体が提供する「価値」を象徴するものとして、経営者の多くが高い関心を持っています。公共空間の中で、企業等のブランドメッセージを伝える看板が「企業の顔」といわれる<sup>ゆえん</sup>所以でもあります。

看板が企業等の製品やサービスの「信用・信頼」、「ブランド」、引いては企業の「収益」を支えていくためには、看板の「安全」は決して忘れてはならないものです。

### (2) 看板を軽んじると、失うものは計り知れない

「もしも、看板が落下し、人にけがをさせるようなことになったら…」 「もしも、看板が汚れていたり、照明が消えていたりしたら…」、お客さまの企業等への評価が低下するばかりか、従業員のやる気、士気も損なうことになるでしょう。

コスト削減を追求する余り看板を軽視すれば、失うものは計り知れません。



## 2

## さまざまな看板

看板には、設置目的別に企業や店舗等の敷地内に設置する「自家用広告物」のほか、敷地外に設置し企業や製品、サービス等をPRする「一般広告物」、沿道に設置し案内するための「道標・案内図板」などがあります。

また、看板の形態によっても、下図のように様々な種類があります。各自治体の屋外広告物条例では、設置目的や形態に応じたルール（設置基準）などを定めています（形態ごとの呼称は自治体によって違う場合があります。）。



## 3-1

### 看板の種類とチェックポイント

## 袖看板(突出看板)

建物の壁面から突き出しているため、低所に設置すると通行人などがぶつかってけがをする恐れがあります。

屋外広告物条例による基準（地面から看板の下端までの高さ、出幅等）を守り設置しましょう。

また、風圧を受けやすい形状であり、建物の外壁や、ポール（支柱）にボルトなどの取付金具で固定するため接合部分に大きな負荷がかかります。看板の高さが4mを超える場合は、建築基準法に基づく「工作物確認申請」が必要ですが、高さ4m以下の場合も強度計算を行うなど安全対策が求められます。

看板の外側はきれいでも、取付金具や内部鉄骨にサビが浸食し強度を保てなくなる恐れがあります。定期的に高所作業車などによる内部点検を行うことが重要です。



#### (1) 小型・中型軽量袖看板

内部の造りが簡単でLブラケットや触れ止め棒で取り付けられていることが多いため、脚立などで簡単に点検できる場所に設置しましょう。



#### (2) 小型・中型鉄骨構造袖看板

高さ4m以下でも工作物と同様に考え、強度計算を行うとともに、ブラケットの防錆処理は耐用年数や設置環境に合ったものにしましょう。

#### (3) 大型袖看板

高所に設置することが多く頻繁に点検できないため、鉄骨は溶融亜鉛メッキを施すなど防錆処理を徹底しましょう。

### CHECK POINT!!

壁面にサビなどの汚ダレがみられる場合は、ブラケットがサビで腐食しています。ひどい場合は看板が落下する恐れがあります。また、板面や押さえ枠のゆがみ、ボルトやビスなどの落下があったら、看板全体の点検・補修をしないと危険。高所からの看板の落下は、人命に関わる事故につながります。直ちに、専門業者に依頼を!



## 3-2

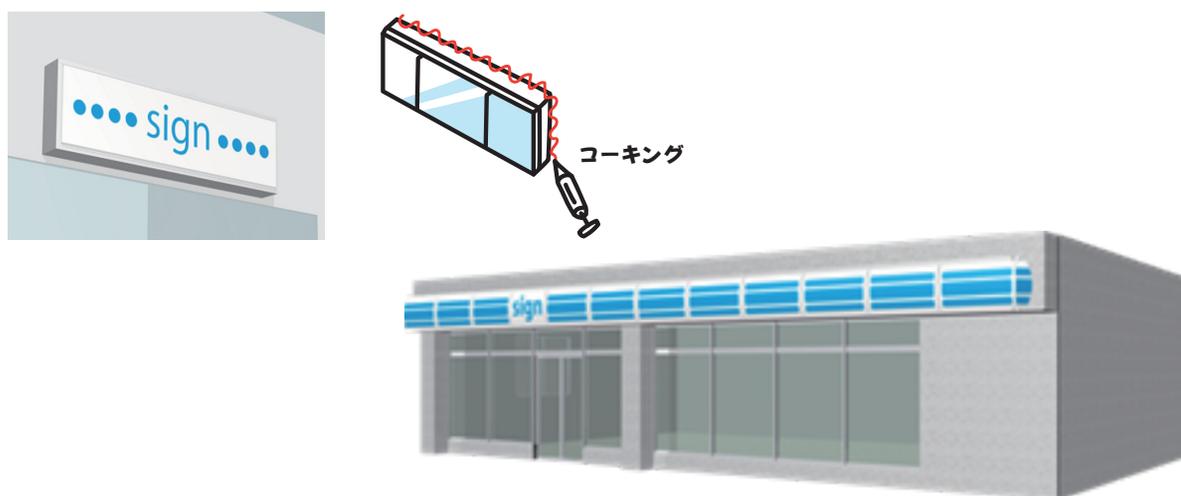
### 看板の種類とチェックポイント

#### へきめん 壁面看板

##### (1) ファサード看板・内照式片面BOXサイン（欄間看板）

大手チェーン店で最も多く使用されており、間口に応じて様々なサイズでの設置が可能です。建物壁面の種類や状態に合わせて、適切な施工方法を選択するよう注意が必要です。

取り付け後は、壁面との隙間にコーキングを行い雨水の侵入を防ぎます。



##### (2) 壁面ボード看板

パネルボード（複合板）などの縁を固定する安価な看板です。複数枚のパネルを使用する場合は、隣り合うパネル同士をきちんと固定しないと、振動や風などで落下する恐れがあります。長期に使用する場合は、耐久性、経済性の点からオールアルミ製のパネルボードをお勧めします。



#### CHECK POINT!!

目視で、パネルの変形、ズレ、破損がないかを確認してください。取付ボルトのゆるみや、壁面の劣化状況は専門業者に点検を依頼しましょう。



落下した欄間看板



落下した後の壁面

## けんしょく じりつ の だて 建植看板(ポール看板、自立看板、野立看板)

建植看板の代表的な例を紹介します。看板の高さが4mを超える場合は、建築基準法に基づく工作物確認申請が必要です。



両面の建植看板では、先端ポールを基礎ポールに挿し込む「串刺し式看板」が一般的で最も多く見られます。この場合は、先に基礎ポールを設置し、後から先端ポール付の看板本体を基礎ポールに挿し込むことで、強度面も剛性が取れ、施工面も安全です。

「盤上式看板」は見た目には串刺し式と同じですが、構造的には大きな違いがあります。基礎ポールの盤上に看板本体を接合するため、接合部分にすべての負荷がかかります。看板本体には十分な強度が必要です。

大型看板の場合は、「二柱式看板」が数多く使用されており、強度的にしっかりしていますがコストが高くなります。大型スーパー等では、メインの看板の下にサブ看板が複数設置されているものを見かけます。

